

# 平成28年度第1回

## まちづくりふれあいミーティング 質疑応答

市民：

市政が、いかに市民に受けとめられているのかというところがしっかりできていないと、これからの富里をどうするかという話の展開が難しい。せっかくの機会ですから、もう少し多くの方々に参加してもらえるような工夫をお願いしたい。たとえば議会と共催するとか区長会に呼びかけるとか、せっかくの機会が市民の住むところまで届かないというのは非常に悲しいし、さみしいと思う。

高齢化という全国的に抱えている大きな課題があり富里だけ別とはならないと思う。元気な高齢者を積極的に活用すべきで、そういうことが必要ではないのかなと思っています。

農業都市としてどんな農業都市にしたいのか、ビジョンが見えてこない。富里スイカブランドが全国的に高い評価を得ていますが、ある意味では、種がまかれて、根が育ち、やっとなんが伸びてきたというところなのかなと思う。なかなかスイカへのしぼりこみができていないのかな。それがあると富里の農業は絶えないと思います。

市長や各部長にこれからの方向性について伺いたい。

市：

高齢化は全国的には26%を超えておりますが、富里市では24%台という数字です。元気な高齢の方々の生きがいは重要だと思っています。

介護保険制度も変わってきており、富里市で高齢者の生きがいはづくりの場を作っていきたいと思っておりますが、現在では具体的な内容が定まっておりません。平成29年度に向けて検討していきたい。

これからの富里の農業の方向性について、平成27年に産業振興基本条例を制定いたしました。これは理念条例でございまして、農業者・商業者・自治体・経済団体それぞれがどういう役割で今後産業の振興に寄与するかを基本理念としてうたったものです。

これを受けまして、平成28年度それぞれの分野におけるビジョンづくりをこれから議論していただきたいと考えておりまして産業振興推進会議の設置が規定されております。こちらで各分野のビジョンづくりをしたいと考えています。

農業の持続的な発展を目指す中、人口の減少や、農業後継者に関しましても後継者不足が一番根源にあります。今後どのように後継者を維持していくかが、まず1点大きな問題だと認識しております。

本市では、新規就農者が幸いなことに10人弱ということで毎年、後継者が育っております。楽観はしてませんが、富里の農業に魅力を感じていただいて集まってくれているという認識をもっております。こういった状況を踏まえ、ビジョンの中で表していきたい。

そしてスイカは、富里の一大特産物ですから、これを継続してやっていきたい。方向性としては富里スイカというブランド高めていきたい。ブランド化を高めることで西瓜の付加価値を更についてくれればいいなということで、今年度は積極的に、農協も取り組んでおり、各方面の消費者の反応も良くなっている感があり、引き続きやっていきたい。

大都市近郊の野菜の産地という、富里の位置付けは市場におきましても認知されているところです。スイカに限らず、それぞれいい野菜を作って頂いておりますので、どの農産物も底上げして行きたいと思えます。

**市民：**

(ふれあいミーティングの参加者) 前回と比べて少ないなと感じます。ふれあいミーティングを消滅させたくはないと思っています。

創年セミナーのメンバーの方が勉強や仲間づくりをしたいと考えています。もっと、議会の傍聴や市がどのように動いているかなど勉強していきたい。

ふれあいミーティングのチラシは図書館やサポートセンターに置いてあるだけではなく、参加してほしいとっとアプローチして広めて頂きたい。

自分の趣味を生かして富里市を良くしたい役に立ちたいという気持ちがある。それをうまくつなげていただけるような仕組みを作してほしい。

テーマが大きすぎるので、もう少し具体的にテーマを絞るなど工夫をしてほしい。

**市：**

今後とも工夫をしていろんな方が集まれるような運営の仕方を検討していきたいと思えます。

**市民：**

平成14年にマスタープランペガサス21というものが策定されて、平成32年を目標ということで14年経っていて、マスタープランを追い越すような少子高齢化や経済的な停滞など、なかなか実際進めるのに難しいとこ

ろがあり、協働のまちづくりなど個別の対応をしているかと感じていますが、その中で、マスタープランの見直しとして高齢者や産業別の振興の見直しなど検討されているのかどうか。

学校関係で3学園構想ということで、特に小中学生の人口が公開されているデータからも実際に生徒は減ってきている。子供たちの安全確保を学園構想において、小中学生の遠距離通学に対応したスクールバス通学の設置等についてお聞きしたい。

市：

マスタープランについては、現在見直しをしている最中です。

平成14年に策定しまして20年に1度改正をするということで、今年度からその作業を進めてまいります。その中で、施設の整備、富里のまちづくりのあり方として最終的に30年度末に見直される方向です。

学園構想について、中学校が市内に3校あり、その区域の中に小学校が含まれております。3学園構想というのは、それぞれの中学校3校を中心として、小・中連携をし、その接続をスムーズにして、不登校の対策とか取り組みをさせていただいております。小中連携の中で、交流する機会も増えていくようになり、児童生徒の移動も必要となります。

スクールバスというかどうかについては、判断は分かれるとは思いますが、登校した後で、小・中学校間の交通手段として、バスを使って移動しています。予算化もされていますし、その必要に応じて学校長の判断で運営をされている状況であります。一般的にいうスクールバスについては、学園構想とはまた別に、現在の基準でスクールバスについても距離的な事がございます。その中で取り組みをさせていただいております。例えば小学校ですと4キロ以上学校から離れている場合、中学校ですと6キロ以上。この場合にスクールバスの事業的な適用がなされるということについては、現在も変わりなく行われるところでございます。

安全という部分も触れられましたので、自転車通学については、学校長それぞれの判断で、教育委員会も助言や提案させていただきながら安全指導をし、かつ安全に通っていただけるよう配慮させていただいております。

変わる部分としては来年の4月には洗心小学校が南小学校へ統合ということになります。対象となる児童につきましては通学方法が変わりますので、先ほどの基準に照らし合わせますと、距離として4キロ以上を上回るような登下校がなされるので、教育委員会といたしましては、洗心小学区につきましては新たにスクールバスを運用して、児童の安全確保に努めて参りたいと考えております。

市民：

現在の農業についてですが新規就農者が増えている傾向と説明がありましたが、新規就農者が増えるのはいいことですが、実際に農地は現在、大きな減傾向にあるのか。市の中で把握するのは困難だと思います。農業委員会の内部調査に基づいて何年かおきにやったりして修正されていますが、これも実態を正確に表していない。実際にどのような意識をお持ちなのか。

ふれあいミーティングの参加者が少ないので、小学校区あたりに市と地域が協働で出前方式などの方が良いのではないかと。

市：

富里市では農地は転用などにより減っております。転用等による農地の減少のほか、耕作放棄地の問題があります。放棄される田んぼは増えています。集約化が一番で、成功すれば解決していくのですが、高齢化がやはり大きな問題になっています。特にすいかなど重いものを収穫するなどは体がきつくなっています。集約化などの対策もやられていますが、それを踏まえても右肩下がりはいなめません。

高齢化でできない田んぼを、農業者を維持していく。抑制はできるのではないかと考えており、定期的に・積極的に行っていく予定です。

ふれあいミーティングの参加者の問題ですが、テーマや公募の仕方、出前方式など色々検討し、多くの方に参加いただけるよう努めてまいります。

市民：

県立富里高校がありますが、県所管の富里高校と市所管の中学校との連携認識の現状についてお聞かせいただきたい。

市：

夏休みにきょうざん塾といって小学生の補習的なものを行っておりますが、成人のボランティアのほかに、昨年からは、高校生ボランティアを募集しております。富里高校、東京学館、黎明高校の3校にお手伝いをいただいております。大学入試に有効な活動となることから、市の教育委員会主催のボランティアに参加したとの証明書をお出ししています。

もう1つは富里高等学校から外国人子女枠で学生をとりたいとご相談があり、市内の子どもの調査を致しまして、継続して市内からも外国人子女の希望もあるということで、今年度から子女枠で入学されたお子様がいたということです。

市民：

買い物など用事で出かけるときに、自分は免許がないので自転車で出かけるのですが、千葉銀行の近くの道で個人の家の木だと思いますが、道の方まで出てきて危なかったり、自転車に乗っている人やベビーカーを押した人とすれ違う時に歩道が狭い為、不便なことがあります。歩道が狭く非常に通りにくくて困っています。道や歩道の整備をきちんとしてほしい。

市：

歩道につきましては、道路交通法の改正によりまして、原則として自転車は通行できないこととなっております。ただし、歩行者と自転車が通行可能な標識のある歩道、小学生以下若しくは高齢者は除かれます。ご指摘の千葉銀行前の通りは現状では自転車と歩行者が通行できる歩道となっておりますが、新たに改修等の整備をした場合、現行の法令に従った整備となるため、自転車は歩道を通行できなくなることを考えられます。

いずれにしても、国・県道の歩道の狭い路線につきましては、引き続き成田土木事務所へ要望してまいります。また、市が管理しております道路につきましても調査を実施し、必要に応じ計画的に改修を進めてまいります。

市民：

自宅は、買い物などに行くのに交通の不便なところで困っています。自転車でしか交通手段がないので、さとバスなども本数を増やしてもらったり、もう少し高齢者の方々など便利に買い物ができるようにしてほしいです。

市：

さとバス、デマンド交通をあわせ4路線運行しております。市内でバスが通っていない所を中心に運行していますが、確かにすべての地域を網羅した運行ではありません。現在の契約が3年契約ということで、大きな見直しにつきましては、平成29年度以降となってしまいます。

ルートの見直しにつきましては、もうしばらくお待ちいただくことになってしまいます。できるだけ空白の地域がないように検討していきたいと考えておりますのでよろしく申し上げます。

市民：

地震災害の市の対応を検討願いたい。最近でも熊本、北海道、新潟など小さい地震もおきています。自分自身、避難所だけはわかっているのですが、本

当にその場所にみんなが入りきれんか心配でもあります。年に1度でもいいので、市を挙げての避難訓練のようなことを提案します。区長様はじめ、区でアイデアを絞って、人がその日だけでも関心をもってもらえるようなことがあればと思って提案させていただきます。

市：

富里での防災という意味では、組織的な体制は整ってきていると自負しております。この会議室も災害対策本部になる機能を備えさせていただきました。自家発電も用意して役所の機能が滞らないようできており最低限整ってきていると思います。

地域こぞって防災の取組みができないかと思っています。市内小学校区で言えば全区域ではありませんが、防災の自主的な地域組織がだんだんできておまして、例を挙げますと第一小学区におきましては防災訓練を定期的に行っていると思います。全地域に広げなければいけないと思っていますのでぜひ推進していきたいと思っています。

防災訓練というお話がありましたが、災害対策本部が明確にここに設置するスペースとしてできましたので、実際に立ち上げた時に、スムーズな関係団体との連絡体制が一番重要かと思っています。有事の際に滞りなくできるかという想定訓練を、近々大規模にやらなければならないと考えておりますので、ご意見も踏まえて早急に検討していきたいと思っています。

市民：

富里市の広報がありますが、問い合わせ先に電話番号の記入はありますが、すべてにFAX番号の記入が入っていない。自分は聴覚障害があり電話ができないので、それぞれのお知らせのところにFAX番号を入れてほしいです。

市：

現在の広報につきましては、各記事に問い合わせ先や申込み先の電話番号、FAX番号、メールアドレスなどを掲載しております。すべての記事にFAX番号を掲載していただきたいというご意見ですが、現在の実情では少し難しい状況です。紙面には限りがありますが、少しでも多くの情報を載せるように工夫しているところでございます。FAXでの申し込みをする記事や、障害者の方を対象にする情報についてはFAXを掲載しておりますが、それ以外については、広報紙の表紙に、代表のFAX番号を掲載してありますので、そちらに御連絡いただければ、秘書広報課より担当課の方へFAXを回しまして、御連絡がとれるようにさせていただきます。代表のFAX番号へ御連絡下さいませ

う御理解をお願いしたいと思います。

**市民：**

富里高校の通学生は、正確な数ではありませんが、おそらく90%くらいは自転車通学なのだと思います。富里高校から、クリーンセンターの前のまでの道路をできるだけ早く良くするようにと、毎回のように耳にします。現在見通しとしては、あの道路はいつぐらいにどうなりそうなのか説明していただきたい。

そして008号線の南平台の信号から上りかけたところの、左側斜面にかなりの本数の竹が生えてきています。コストがかからないうちに伐採することを、検討していただきたい。道にかかる前に、早期に対応していただきたいです。

スクールガードリーダーの現在の制度について、存続しているのか御説明いただきたい。

**市：**

御指摘の市道01-006号線につきましては、早期に整備したいと考えております。人形台交差点から関東タイヤまでの第1工区は既に用地は取得しており、今後は第二工区の関東タイヤから吉川医院前の交差点までの区間の用地取得を進めていく予定です。また、道路整備につきましては、随時整備して行く予定でございますが、用地取得及び工事は国庫補助事業で行っておりますので、時間はまだかかるものと考えています。また、01-008号線の斜面の竹の件は、早期に対応させていただきます。

スクールガードリーダーの件については、はっきりと調べて後日、回答いたします。(現在、スクールガードリーダー事業は廃止となっております。)

**市民：**

昨年の第2回でも質問がありましたが、成田富里いずみ清掃工場の件ですが、富里市のクリーンセンターは不燃ごみということで処理されていますが、ネット上でみるとリサイクルセンターということで書いてありますがどうなっているのか。

成田の中間処理施設については、ダイオキシンなどが中間処理施設から最終処分場に行くと思いますが、どこでおこなっているのか。

**市：**

焼却については、いずみ清掃工場で行っています。リサイクル関係のキャン

ビンの収集については、現富里市のクリーンセンターにその機能がありそこで処理しています。リサイクルセンターで処理しているものは、すべて再資源化を前提にやっている。どうしても再資源化できないものは、外部に委託して有料で処理を行っています。

成田富里いずみ清掃工場での焼却後の焼却灰等の処理方法ですが、計画では溶融スラグというものがでてきますので、それも利用していくという計画で行っています。それは、ストックをして、ある程度の量を用意しないと、安定供給ができないということで、成田市独自の事業ですが、ストックヤードを建設中です。来年の秋には完成する予定です。完成すると有償で販売できるようになります。

では今スラグはどうしているかという最終処分をして富里、成田以外のところに持って行って有償で処理をしています。

**市民：**

マニフェスト伝票の管理や排出者側にも通達に関する環境分析のデータは保管されているのでしょうか。

**市：**

成田富里いずみ清掃工場は、富里は成田に委託している形ですので、事業主は成田市となっており、成田市が法律に基づいた伝票管理などを確実に行ってまいります。

**市民：**

富里市はお金がないというのは市民もなんとなくわかっている。街が市民の協力を少し引き出していく組織作りが大切ではないか。宣伝に協働のまちづくり条例を採決しています。市の共助という力をもっと活用していいのではないか。富里市は先行しているよというくらいの、パワフルな事業展開をお願いしたい。

各自治会ごとにできることをやろうとしていますが、市の中でもルールが先行している気がします。もう少しハードルを低くしながら市民の力を引き出してほしい。富里は市民全体でつくっている街なんだというような前向きな意思を持ってほしいと願っています。

**市：**

積極的に市民の方々が協働という取組をご理解いただいて、現在、協働について携わって頂いている方々の努力だと感謝しております。徐々に団体数も増



えておりますし、取り組みの種類も増えてきております。本来の協働の目的に近づいてきていると本当に感謝しております。

ただし、大前提は公助共助といいますけれども、公の行政団体が必ず行わなければいけないものは行わなければならず、それはむやみに市民の方にお手伝いいただくというところは峻別していかなければならないと思って、今後に向けてのやり方、段取りも含めてしっかり抑えなければいけないと考えております。

登録団体数も急激に増えておりますし、コーディネーターの方にかがってみましたが、比べようがなかなか難しいそうですが、富里市は積極的に取り組んでくれておりますし、団体数も少ない方ではないとのことで、さらに協働の取り組みを推進できたかなと考えております。行政体としてしっかりと方向性を誤らないようにしながら皆さんの協力を得たいと思っております。